# 自己紹介

金沢大学大学院 自然科学研究科 機械科学専攻 修士１年の三宅悠暉です．

私はロボティクスメカトロニクス研究室に所属しており，軟らかいロボットに関する研究をしています．

本日はよろしくお願いします．

# 終わり

本日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございました．失礼いたします．

# 自己PR

・私の強みは、思いついたことをすぐに実行できる「行動力」です。

・私は常日頃、学生がアルバイト以外で、営業やモノづくりでお金を生み出す方法はないのか考えていました。よって、フットワークの軽さ・学生ならではの発想力を生かすために起業した。

・苦労した点は、営業をする前にお客様の情報を調査し「そもそもIoT導入に前向きなのか」「導入をするのであればどれくらいの規模感なのか」を検討します。

・営業のアポを頂けた場合は、お客様と色々お話をさせて頂く際に詳細に話を聞きだすことです。話をきくだけでは相手の要望は鮮明に見えてこない。よって、認識のすり合わせをすることが重要であると学びました。

・しかし、様々な提案をお客様にさせてもらい案件を頂くことができましたが、学業との両立することが困難となり、会社を畳むことにしました。

・諦めたくなかったので、知り合いの教授や社長に営業をして、アプリ開発や業務自動化などの案件を頂くことが出来ました。

・この経験より、思いを実行できる「行動力」があるのはもちろんですが、失敗を通してフィードバックができる人材だと思っております。

# 志望動機

・プログラム教室を同時で開催している団体に所属していて、そこで使用するロボットの基板設計を行っている。そこで、私が製作したロボットの基板を見てわくわくしている様子を見てやりがいを感じていました。

・このような経験から、「魅せる」「楽しむ」「活かせる」という御社の理念に共感したから。特に、御社の製品は、手に取れるような小さなものが多いです。よって、五感である触覚・視覚へ最大限アプローチができると考えています。特に、小さな製品は外側の質感・デザインがお客様に大きく影響があると思いますが、内部の構造も「魅せる」ことができるのではないかと思っています。

・そこで御社では、製品の外側はもちろん内側の機構・基板なども含めてお客様が使ってワクワク・興奮するような製品を設計・開発していきたいと思っております。

・私も御社の製品を愛用している。

・どのような製品をつくるのか→？？？

# 研究内容

曲げられるエアシリンダの開発を行っています。

従来のエアシリンダはストロークを長くするとそれに伴ってエアシリンダが長くなってしまいます。

・しかし、曲げた状態でも配置できる且つ、動作できたらどうでしょうか？

・技術者は不要な配置設計や部品選定に追われることなく設計できるでしょう。

・よって、研究をしている。

# 就活の軸とその理由

・手にとれるような小さな製品を開発したい

△若いうちから開発に携われる企業→中小企業

・生活の一部に組み込まれている製品を開発したい

・一般のお客様に使ってもらえて、支えることができる仕事

・おじいちゃんになったときに、自分ひとりで製品レベルのモノ(アプリ)をつくれるようになりたい。

# 挫折した経験とどう乗り越えたか

・尊敬している博士の方に、「お前のできることはだいたい何でもできるしなぁ」と言われて、ぐうの音も出なかったこと。この挫折を経験する前は、自分は大体努力すれば何でもできると思っていた。実際、努力もしていると自分で思っていた。

・どれだけ起業・実践的な開発・部活で優秀な成績を収めることができていても、上には上がいることを人生で初めて知った。

・その経験から、自分の無力さを自覚するということを行った。自分は何が苦手であるのか、今自分が出来ていると思っていることは本当なのか？という問いを続けることでさらなる成長をするためのモチベーションへとつなげることができた。

# 学生時代に力を入れたこと

アルバイトで、遺跡から発掘される史料のゲノム解析実験装置を開発したこと。

他の大学や研究機関で様々な方が使用されることを想定→操作性・堅牢性

国内外の遺跡で使うことも想定→モバイル性・堅牢性

理由は、開発力が他の分野の役に立てるのではないかと思ったから。

実験方法を学び、そこから「どこが」「どのように」自動化できるのか検討した。

# 長所と短所

・長所：思いついたことをすぐに実行できる「行動力」

・短所：押しに弱い

# 逆質問

半導体を多く使う御社では、どのように半導体不足を乗り越えられたのか

# ESについて

## キーワード

純粋：周囲の人に心から興味を持っている。

タフ：どんなに辛いことでも自分の成長に繋がるのであればへこたれない。

寛容的：言動や意見を一旦受け入れること。中立である。

共感的：他人の感情や経験を，あたかも自分自身のこととして考え感じ理解すること。

信頼される

緻密的：非常に細かく、隅々まで注意が行き届いている

## 会社の定義

・私は承認欲求が高いので、自分の能力を発揮でき人から認識されたい。

・また、組織である限りは多くの人が関わり合い、意見を交わしたい。

・私も出来ないことは多々あるので、助け合い支えあいながら仕事をしていきたい。

# なぜ規模の小さい御社なのか

開発している製品がはっきり分かっていて、自分がやりたい内容がやれる確率が高いから。

自分がよく使う製品を販売する企業で、使う側ではなく作る側として携わりたかったから。

# 周りから自分はどう思われているか

初対面は怖いといわれるが、話してみるととても話しやすい。

後輩はもちろん先輩からも頼られることが多い

真摯に向き合ってくれる

# 一人暮らししてよかったこと

行動する上で、制限が少なくなったこと

知り合いの大人とも飲みに出かけたりするので、迷惑がかからない

釣りに行くときも

改めて母親の大変さを実感した。もともと母親とは不仲だったが、「お弁当つくるの大変なんだね」などと一人暮らしの大変さを伝えたら、仲が良くなった。

私が暮らすうえでどのくらい費用がかかるのか理解でき、暮らすためには様々な手続きがいるんだなと感じた

# 人と接するときに意識していること

初対面で怖いといわれるので、なるべく笑顔で楽しそうに話すようにしている

相手の意見をニュートラルで受け入れ、気になったことは質問する

否定から入らない、否定するのであれば「こうゆう意見もあるよね？」という

# コロナウイルスの状況に社会人としてどう立ち向かうべきか

コロナ世代と言われる私たちではあるが、コロナのうちにしかできないこともある。

なるべくポジティブに物事を考え、コロナだからできることを探す。

特に電子機器は、巣籠需要が拡大したため売上が上がる傾向がある。

コロナならではの新しい世界を創造するのが社会人の役目ではないだろうか

# 入社後の自分

志望動機に書いてある